

一戦一戦を大切に 小川 亮さん（東蓼沼東）



第84回全国高等学校サッカー選手権大会栃木県予選で優勝し、12月30日から開幕する全国大会への出場が決まった小川亮さん（県立真岡高等学校3年生）に話を伺いました。

今年の県内の主要大会3冠（関東大会予選・インターハイ予選・選手権予選）を達成し、国体の少年チームのキャプテンでもある小川さんは、真岡高等学校では守備の要として、またチームの中心選手として活躍しています。

サッカーを始めたのは、小学校5年生の時でした。始めたばかりには、攻撃の柱のフォワードとして活躍していましたが、高校に進学してからは、ディフェンダーにコンバートし、能力を発揮できるようになったとのこと。二桁攻撃の選手だったの

今月の輝ける星

で、今でも攻めるのは好きですね。」と話していました。しかし、「攻めの選手はシュートを10本放って、1点が取れば評価されますが、守備の場合は10本中10本、防がなければ評価されませんからね。攻めの選手が点を取ってくれるのを祈って、一生懸命守備に徹します。」と真剣なまなざしで話してくれました。

高校2年生の時に、腰痛でほとんど練習ができず、苦勞をした時期もあったとのこと。けがを克服し、全国大会出場を決め、目標について尋ねると、「1回戦突破が目標です。上を見るよりも、そのときの一戦一戦を大切に戦っていきたいです。」と、試合への意気込みを語ってくれました。

今後については、「大学に進学が決まったら、続けていきたいです。」と笑顔で答えてくれました。



今月の農産物は、クリスマスケーキに華を添えるいちごです。

JA うつのみや いちご専門部会の原美智夫（西木代）さんに話を伺いました。

現在町では、98人がいちご部会に所属しています。原さんのお宅では、9月上旬に定植をし、11月上旬から出荷が始まるそうです。11月から5月末まで収穫でき、収穫後は、苗床づくりと、1年を通していちごの生産をしています。

原さんは「今年は、うどん粉病などの病気が若干出ましたが、天候にも恵まれ、例年と比べて順調です。」と、安堵の様子で答えてくれました。

いちごの生産を始めた時期について尋ねると、「就農したのは20年前ですが、自分



わが町の農産物



いちご 編

が生まれる前から父が生産していました。」とのことでした。現在は40アール栽培しており、12月は年間を通して一番需要が多い時期とのこと。

特にクリスマスケーキ用の出荷が多く、糖度も高く、形のいいいちごは、原さんの家族の手で、箱詰め作業の真っ最中でした。現在、最盛期のため1日100ケースを出荷しています。

一番苦勞することは「農作物は天候に左右されやすいが、消費者に良いものを提供したいので、如何に良いものを作るかが一番苦勞しています。」とのこと。

若い就農者も増えており、今後は「農業の後継者として、お手本となるようになりたいですね。また、消費者に安心して安全な、美味しいいちごを提供していきたいです。」と、意気込みを話してくれました。

